

8月下旬、猿江公園でウシガエルの駆除の様子を見学し、捕獲作業の一部を手伝わせていただいた。前号で紹介した通り、猿江にはヒキガエル、ニホンアカガエル、ウシガエルの3種類のカエルがいるが、このうちウシガエルは特定外来生物に指定されている。

この日、現場を仕切ってくれたアイザワさんはこう話していた。「『生き物を駆除する』と言うと、一般の方からは必ず『かわいそう』と言われる。でも、その駆除したウシガエルのお腹から100匹の在来種が出てきたらどうでしょうか？かわいそうと言う人たちの知らないところで、実はたくさんの在来種が食べられてしまっているんです。」

では逆に、「外来種＝悪」なのだろうか？外来種たち自身は、生きるために必死になっているだけでそれ自体は何も悪くない。だから、**外来だからという理由だけで何でもかんでも駆除して良いわけではない**と思う。この点、多くの高校生も「外来？じゃあ駆除で」と安易に考えている場面によく出くわす。PTA向けの講演会（Vol.126参照）でタクムが言っていた「**生き物に敬意を払うべき**」という意識は絶対に持ってほしいところ。ただ、「特定外来生物」に指定されている生物は、在来の生物を壊滅状態にしてしまうので、やはりどうしても駆除は必要だ。

そう、外来種の問題は単純ではないのだ。駆除を進めながら、一般の方々にこの問題を**きちんと理解してもらうための普及活動**を行い、みんなで環境を改善していく必要がある。正直、授業で外来種問題を扱ってもしっくり来ない。みんな他人事だからだ。教科書から飛び出す必要があると感じていた。そんな中、こんな機会をいただけて本当に有難い。複雑な問題だからこそ、高校生には自分の目で現場を見て、外来種問題に関わっている人たちのナマの声を聞いて、自分で考えてほしい。この日参加したゼンたちは、捕獲したウシガエルを安楽死させる様子も見学した。生き物好きの彼らにとって、例え特定外来生物でも目の前で生き物が死ぬ様子を見るのはつらいはずだ。アイザワさんは「**殺処分まで見せるかどうかは悩みました。**」と言う。「生物保全を扱う上で避けられない作業ですが、じつは生物を扱う大学などでもしっかりと関わることの少ない内容です。」「ただ、生物が大好きな科学技術高校の皆さんだからこそ、見てほしい、色々なことを感じ考える機会になれば…と

思い、体験していただきました。」アイザワさんは並々ならぬ思いで高校生に向き合ってくれていた。この日、駆除活動を見学してみて実感したことがある。とてもじゃないが捕獲しきれない！ということだ。池の中のすべてのウシガエルを取りきるなんて不可能。一度侵入すると、取り返しがつかなくなることを実感した。そんな中、今年9月に奄美大島で外来種のマングースの根絶宣言がなされた。猿江の池だけでも超大変なのに、島全域で逃げ回る哺乳類をよく根絶できたなど、この報道には驚いた。並々ならぬ努力があったそう。外来種の根絶は極めて難しく、世界的にも奄美の例は珍しい事例となった。

ウシガエルの影響は凄まじくて、23区最大規模の公園である水元公園や葛西臨海公園では、このカエルの侵入によって**もともといたヒキガエルが激減した**（原因がウシガエルだけとは言い切れないが）。ところが、猿江ではウシガエルが侵入しているのにヒキガエルやアカガエルが生息できている。今回のような地道な駆除作業が功を奏しているのだろうが、それだけでは説明しきれない気がする。オタマジャクシを駆除しきれない割には、ウシガエルの成体の数が少ない気がするのだ。ヒキガエルの方は成体が数百匹いるのに、不思議だ。この謎を解き明かすことができれば、モデルケースとして他の公園に応用できるかもしれない。

外来生物とどう付き合うべきか ウシガエル駆除作戦

※専門の方の指導の下で行っています。くれぐれも真似しないように。



捕獲個体の仕分けや計測を手伝わせていただいた。

大量の蚊の猛襲を受けながら、捕獲したウシガエルを仕分けるだけでとても大変な作業だった。捕獲した以上、データをきちんと取るのも大切な。



スガヤさんが捕獲したウシガエルの成体

大人のウシガエルはとにかく大きい。大きな口で昆虫や魚、カエルなどを食べてしまうので、侵入すると在来種が激減して環境が悪化してしまう。



上陸した幼体

まだ尾が残っている変態途中の個体。



上陸直後の幼体（左）と成体（右）

幼体が体長5cm、体重13gであるのに対し、成体は体長18cm、体重615gだった。ウシガエルは上陸後、なんと体重が47倍にまで成長している。なお、「上陸」と書いたが、ウシガエルは成体も水中で生活していることが多い。

ウシガエルのオタマジャクシ

この日、オタマジャクシ72匹、変態途中176匹、幼体2匹、成体1匹の計251匹が捕獲された。

